バス業務標準化準拠　車載デバイスやAI技術を活用した運行系業務システムおよび安全管理業務の高度化の技術検証
｜株式会社Will Smart･WILLER　EXPRESS株式会社

プロジェクト概要

国土交通省が示すバス業務標準仕様を参考に、Webベース、ペーパーレス、IoT等の最新技術を取り入れたバス業界向けパッケージシステムを新規開発する。既存システムへの標準化仕様の追加改修ではなく、新規開発する運行系業務システムにより拡張性･柔軟性を確保する。WILLER EXPRESS株式会社の安全運転管理システムとの連携を図り、高度な運行管理の実現を目指す。

課題

安全管理、運行管理、旅客向け情報提供システムが分散し、設備投資余力が限られる事業者の負担となっている。運行管理業務やGTFS-RTを活用した情報提供業務の負荷が高く、データを一元的集約するシステムが求められている。具体的には、以下の課題がある。

- 安全運転管理機器やバスロケ機器が複数に分散。運用コストの負担が大きい。
- 情報提供業務が属人化している
- 車両データを活用した運行管理者による安全管理業務の省力化と精度向上

取組内容

運行管理、バスロケーション、GTFS化ツール等を備えた、運行系業務支援システムとして、車載データの取得からクラウド上での一元管理し、運行管理･安全管理･利用者向け情報提供までを一気通貫で実現する。併せて、WILLEREXPRESS社による車両イベントを活用した安全管理業務高度化の技術検証を行う。

- 安全運転管理／旅客情報提供／運行管理とデータを連携した業務システムの開発
- 運行データの一元化による分析･改善･安全対策の高度化検証
- GTFS-Realtimeによる外部情報公開
- 安全管理クラウドシステム「Roots」との連携検討
- AIを活用した運行管理業務の効率化

事業要件

- 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上（標準化）

技術要件

- バス業務標準仕様書

効果

- 業務標準モデルを参考に経済合理性あるパッケージサービスを展開する。既存システム比較し初期導入費（直接費用）およびデータ更新や運用における人件費などのトータルコストを低減する。

事業実施自治体･エリア

都市間高速バス東京発－芝山町
成田シャトル新木場線（新木場駅⇔成田空港･芝山町役場）

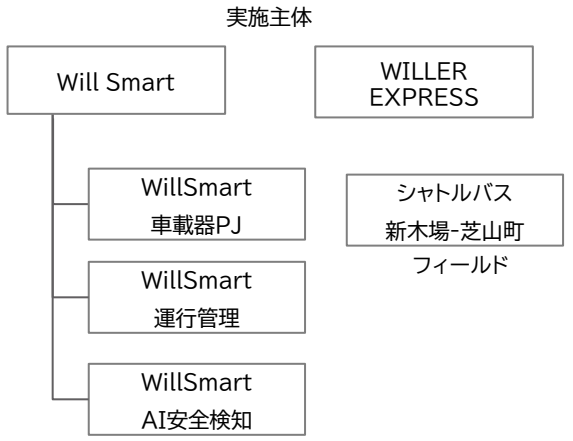
交通事業者

WILLER　EXPRESS

アプリ･システム等

- アプリ･システム：情報提供･FMS･安全運転管理システム
- データの取得方法：　OBD型車載システム･ドラレコから取得
- データの活用方法：運行管理、安全管理の正確性･効率化、情報提供の利便向上

座組



スケジュール

- 8月ー9月
  システム化要件整理
- 9月-12月
  アジャイル型開発/AI駆動型開発/モジュール利用
- 12月～1月
  実証検証
- 2月
  報告･評価

Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.